

第72回（2023年度）全国社会科教育学会 全国研究大会のご案内

大会テーマ：社会科教育研究は、教師の成長にいかに関与し得るか

2023年6月9日

全国社会科教育学会会長 梅津 正美
第72回全国研究大会実行委員長 桑原 敏典

入梅の候、会員のみなさまにおかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。
さて、第72回（2023年度）全国社会科教育学会全国研究大会を下記の要領にしたがって開催する運びとなりました。会員の方々はもとより、社会科教育に関心をお持ちの会員以外の方々にも、広くご参加くださいますよう、ご案内申し上げます。

I 大会要項

- 主催 全国社会科教育学会
- 後援 岡山県教育委員会，岡山市教育委員会，日本教育大学協会社会科部門
(申請中)
- 期日 2023年11月18日（土） 19日（日）（※変更になりました。ご注意ください。）
- 場所 岡山大学教育学部（津島キャンパス）
- 日程

第1日 11月18日（土）

	8:30 9:00	12:10	13:30	16:30	17:30
受付	自由研究発表	昼食	シンポジウム※2	総会※3	
		理事会※1			

※1：理事会は12:20～13:20。 ※2：オンラインで同時無料公開します。 ※3：昨年度研究奨励賞受賞者のスピーチあり。

第2日 11月19日（日）

	8:30 9:00	11:30 12:30	14:00 14:10	16:10
受付	課題研究	昼食	ブックトーク	自由研究発表
		若手研究者らのラウンドテーブル		

II 大会企画

第72回大会は、「シンポジウム」・「課題研究」・「自由研究発表」・「ブックトーク」・「若手研究者らのラウンドテーブル」で企画を構成します。「自由研究発表」・「ブックトーク」・「若手研究者らのラウンドテーブル」はエントリーを受け付けます。エントリーを希望される方は、後述の要領にしたがってお申し込みください。

1. シンポジウム

社会科教師教育研究は、教師の成長にいかに関与し得るか

2010年代以降、社会科教育研究において教師を対象とする研究が注目されるようになり、今では一つの領域として地位を確立している。また、教師自身が研究を通して自らの力量形成に取り組むなど、教師教育研究の主体は学校現場にも広がっている。一方、教育現場の課題は多様化、複雑化し、それらに対応できる高度な専門性をもった教員を育てることは、教員養成・研修にとって喫緊の課題となっている。本シンポジウムでは、まず、これまでの社会科教師教育研究が、教師の成長を促すことによりどのように役立ってきたか、そして、学校現場が直面している様々な課題に対応できる教員を育てることに寄与してきたかを検証したい。そのうえで、社会科授業改善や教師の社会科授業力の向上に資するこれからの社会科教師教育研究はどうあるべきかを、参加者の皆様とともに考えたい。

シンポジウムの論点は、以下の三点となると考えている。

- (1) 時代や社会が求める社会科授業ができる教員には、どのような資質・能力が期待されているのか。多様な児童・生徒の成長を支援できる教員には、何が必要か。そのための養成・研修はどのようなものか。
- (2) 現在の社会科教育における教師教育研究の特質は何か。教育現場の教員の養成・採用・研修の改善にどのような示唆を与えているか。
- (3) 児童・生徒とともに成長できる教師の支援という観点から、これからの社会科教師教育研究には何が求められるのか。社会科教師教育研究の課題は何か。

多様な教育課題に対応できるということの他、学習指導要領の改訂に伴う新たな教育課題への対応など、教員に求められる資質・能力は社会や時代の変化に伴って大きく変わり得る。第一の論点は、教員養成や研修のシステムは、それに見合ったものになっているのかということである。

第二の論点は、教師教育研究の成果は教師の実感や実態に合っているのか、それは、優れた資質・能力を持つ教員の養成に貢献しているのかということである。

そして、最終的には、第三の論点として示したように、上記の二つの論点をふまえた現状把握に基づいて、社会科教師教育研究のこれからの課題は何か、どのような方向を目指すべきかを議論したい。

シンポジスト	川口広美（広島大学） 藤瀬泰司（熊本大学） 村井大介（静岡大学） 横川和成（西脇市立西脇南中学校）
指定討論者	磯山恭子（国立教育政策研究所） 戸田善治（千葉大学）
コーディネーター	大澤克美（東京学芸大学） 桑原敏典（岡山大学）

※本シンポジウムは、オンラインで同時無料公開します。

2. 課題研究

課題研究Ⅰ 社会科教育の規範的・原理的研究は、教師の成長にいかに関与し得るか

社会科教育における教師教育研究については、米国や英国の研究が先行していたという事実は否定できない。21世紀になり、欧米の研究成果を学んだ若手研究者によって社会科教育における教師教育研究の扉が開かれた。さらに、米国の教育学研究者であるスティーブン・ソントンの“Teaching social studies that matters: Curriculum for active learning”（邦題『教師のゲートキーピング』春風社、2012年）の翻訳・出版は、教師のゲートキーパーとしての役割を提案し、その理論的基盤を形成した。では、社会科教育研究において、社会科教師の資質・能力や役割は、どのように明らかにされてきたのか。これまでの研究によって、社会科教師の成長を捉える理論的枠組みは構築されているのか。本課題研究では、これらの課題を検討していきたい。

コーディネーター 田口 紘子（日本体育大学）
中原 朋生（環太平洋大学）

課題研究Ⅱ 社会科教育の開発的・実践的研究は、教師の成長にいかに関与し得るか

新たな授業構成理論や教授理論を、具体的な単元や授業の開発・実践を通して提案する研究は、日本の社会科教育研究を長く牽引してきた。それが事実であることに疑いの余地はないものの、実際に、研究者の提示する理論が、教育現場の社会科授業の改善に寄与してきたかどうかについては、議論の余地がある。理論と実践の乖離は、我が国の社会科教育研究において長く提起されてきた問題である。また、近年は、社会科教育の研究者に対して、理論の提示よりも、複雑化し難解となった学習指導要領や教科書の解説を期待する声も強くなっている。研究に対して教育改善に役立つことが求められるのはもちろんだが、求めに応じているだけでは学術性を維持できないのではないだろうか。そして、学習指導要領や教科書を分かりやすく示すことが、実際に教師の成長を支援することにつながるのだろうか。

一方、教師の中には、開発的・実践的研究に取り組み、自ら力量を高めている者も多い。先に述べた理論の提示も、自ら研究に取り組む教師によってなされることが少なくない。ただし、自分で開発的・実践的研究に取り組むことが教師の成長を促していることは間違いないが、それがごく一部の教師に限られていることも事実である。開発的・実践的研究を通して、教師はどのように成長しているのか。それが今以上に広がりを持つようになるためには、何が必要か。本課題研究では、このような問題の解決のための新たな切り口を見出していきたい。

コーディネーター 井上 昌善（愛媛大学）
中平 一義（上越教育大学）

課題研究Ⅲ 社会科教育の実証的・経験的研究は、教師の成長にいかに関与し得るか

近年の社会科教育における実証的・経験的研究は、これまでは研究上あまり関心を持たれておらず、常識的・感覚的に捉えられがちであった社会科教師の実態を科学的に解明している。その成果によって、これまでの伝統的な教師観は覆されてきつつある。しかし、そうして明らかになった教師の実態が、教育現場の実態とズレているのではないかという疑問も提示されている。例えば、教師のクリエイティブな授業開発の思考が明らかにされる一方で、現場の授業は従来通り一方的に知識を伝達する講義スタイルで行われているというような事実もある。実証的・経験的研究によって教師に関わる事実が解明されることが、教育改善を実際に促しているのだろうか。

また、児童や生徒の実態や成長を明らかにしようとする実証的・経験的研究についても、近年は方法論が確立し、精度も増してきた。このような研究は研究者だけではなく、教師自身によってもなされるようになったが、この研究に携わることは、教師自身にどのような影響をもたらすのだろうか。本課題研究では、これらの問いを探究していきたい。

コーディネーター 大坂 遊（周南公立大学）
堀田 諭（埼玉学園大学）

3. 自由研究発表

分科会ごとに、発表 20 分・質疑応答 10 分の枠内で、スライドやレジュメを用いて研究発表を行います。ご自分の研究成果について、参加者から多くの意見をいただきたいという方、参加者と意見交換をしたいという方におすすめてです。

4. ブックトーク

応募した発表者が、指定された時間（1 件につき 30 分）を自由に使って、既に発刊した書籍、発刊予定の書籍、あるいは、出版を企画している書籍の紹介をします。ご自分の出版された書籍を多くの方に手に取ってもらいたいという思いを持っている方、これから出版される書籍のことを多くの方に知ってもらいたい方、出版を企画している書籍の意義を多くの方に知ってもらいたいという方におすすめてです。

5. 若手研究者らのラウンドテーブル

本ラウンドテーブルは、若手研究者が互いの研究について情報交換をしたり、研究のためのネットワークを拡大したりすることを支援するために企画しました。本大会では、年齢は関係無く、大学院生（修士課程、教職大学院、博士課程等）、あるいは学位取得後 8 年未満の方を若手研究者とします。申し込みをした若手研究者が、研究テーマの種類によってテーブルに分かれ、ファシリテーターの下で意見交換を行います。

※「自由研究発表」「ブックトーク」は、個人研究、共同研究の別は問いませんが、筆頭発表者の方は会員に限ります。「若手研究者らのラウンドテーブル」は、申込時に発表題目を申請する必要はありませんが、研究テーマを表すキーワードをお伝えください。また、参加できるのは会員のみです。

Ⅲ 申し込み

「参加申し込み」「発表申し込み」は大会ホームページからお申し込みください。大会ホームページは、全国社会科教育学会ホームページ (<http://jerass.jp>) からリンクしています。大会ホームページは、6 月下旬に開設する予定です。

1. 参加申し込み

本大会では、申し込みを、(株) コームラで取り扱います。大会ホームページをご参照いただき、9 月 29 日(金)までにお申し込みください。

○大会参加費は、一般 3,500 円（当日支払いの場合 4,000 円）、学部生 1,500 円（当日支払いの場合 2,000 円）です。事前申し込み・振込にご協力をお願いいたします。※本大会では懇親会は開催しません。

事前振込の締切は、クレジットカード決済は 9 月 29 日(金)、銀行振込の場合は 10 月 6 日(金)です。期限を過ぎた場合は、当日支払いと同金額とさせていただきます。

○昼食は、学内の食堂が営業しておりますので、そちらをご利用ください。

○72 回大会では、お子様を同伴する参加者のために託児室を設置します。託児には、事前申し込みが必要です。（詳細は「3. 学会託児」をご参照下さい。）

2. 発表申し込み

○大会ホームページに、申し込み用フォームがあります。ここに必要事項を入力していただき、7 月 28 日(金)までにお申し込みください。大会が開催される 11 月は、岡山市は多くの観光客が見込まれるため、宿泊場所の確保が困難になることが予想されます。そのため、参加申し込みと宿泊予約をできるだけ早めにされることをおすすめします。

○第 72 回大会においては、「自由研究発表」「ブックトーク」の発表申し込み、および、「若手研究者らのラウンドテーブル」のエントリーを受け付けます。「Ⅱ 大会企画」をご一読いただいた上で、お申し込み下さい。

- 発表の申し込みは、お一人につき、「自由研究発表」「ブックトーク」（どちらも個人／共同を問わず）それぞれ3件までとさせていただきます。「ブックトーク」と「若手研究者らのラウンドテーブル」は開催時間が重なりますので、同時の申し込みはできません。共同研究の発表申し込みは、筆頭発表者の方が行ってください。
- 発表を申し込まれた場合においても、「参加申し込み」を行っていただく必要があります。なお、プログラムに共同研究者として掲載される方は、全員「参加申し込み」を行っていただくとともに、大会参加費をお支払いください。
- 「自由研究発表」の申し込みをされた方は、発表要旨集録の原稿執筆をお願いします。フォーマットは大会ホームページをご参照いただき、作成下さい。要旨原稿の締切は8月28日（月）です。

3. 学会託児

- お子様を同伴する参加者のために、会場付近に託児室を設置します。是非積極的にご利用下さい。
- 託児委託先と託児室の場所については、安全性確保の観点から、申込者にのみお伝えいたします。
 - 設置時間は、1日目が8:30～17:30、2日目が8:30～16:15です。
 - 対象は、学会参加者の生後3ヶ月から小学校6年生までのお子様です。
 - 託児は事前の申し込みが必要です。申し込みは、参加申し込みの「託児申し込み」欄をお願いします。確認の後、申込書等を実行委員会より送らせて頂きます。
 - 参加事前申込の締切日である9月29日までに申し込み下さい。
締切日以降にやむを得ず変更やキャンセルをする場合は、すぐに jerass72okayama@gmail.com へご連絡下さい。
- ※託児に関するご質問は、jerass72okayama@gmail.com までお願いいたします。

IV 問い合わせ先等

〒700-8530 岡山市北区津島中3-1-1 岡山大学学術研究院教育学域

担当：桑原敏典・山田秀和

E-mail: jerass72okayama@gmail.com

TEL: 086-251-7624 (山田)

重要な締切日一覧

(1)大会発表申し込み	: 7月28日（金）17:00
(2)発表要旨	: 8月28日（月）17:00
(3)大会参加事前申し込み・託児申し込み	: 9月29日（金）17:00
(4)大会参加費事前振込み（クレジットカード決済）	: 9月29日（金）17:00
大会参加費事前振込み（銀行振込）	: 10月6日（金）17:00